

# 不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.12 (2017.3.27)

平成 28 年度スローガン  
創業 140 周年に向けて！  
みんなで目指す顧客感動経営  
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

弥生三月、当社の 54 期もうすぐ終わります。おかげさまで持ちまして、当初の計画に近い売り上げと利益を確保できる見込みとなっております。「みんなで目指す顧客感動経営～和賀組さんで良かったといわれよう～」をスローガンにした一年でしたが、大きなクレームも無く、様々な場面で「和賀組さんをお願いしたい」というお客様からの声を頂き、大変うれしく思っております。以前にもここで述べさせて頂きましたが、皆さんの給料は社長の私が払っているのではなく、当社にお仕事を発注して下さった「お客様」から頂いているものだと改めて皆さんと共有したいと思えます。また公共事業におけるお客様とは「役所」に限りません。国民・県民・市民の皆様から役所で頂いた税金で仕事をさせて頂いているのだと考えるとき、私たちの身の回りのすべての方々が「お客様」であると考えなければならぬし、そういう意味では常に謙虚に生活をしていかねばならないのだと私自身思っております。

さて、来月からはいよいよ 55 期がスタートします。秋田市でかねてより準備をしておりました、「R+ハウス秋田北」が本格始動します。スタッフとして新たに 3 名の仲間が加わることになりました。職員数 37 名・常用作業員 22 名、私を加えると 60 名の会社となります。私自身改めて経営に対する責任の重さと、140 周年の節目の新たな飛躍への確かな手ごたえを感じております。今から 36 年前、私も社会人としての第一歩を踏み出しました。早く会社の役に立つ人間になりたいと、必死で研修プログラムに取り組んでいた記憶があります。澄み切った心で聞く講師の言葉は新鮮で、今でもいくつかの言葉は私の人生の羅針盤となっております。その一つの「美点凝視（びてんぎょうし）」という言葉を紹介いたします。人間には様々なタイプが存在し、気の合う人もそうでない人もいます。しかし組織として働く上で最も重要なことは、個々人がその組織の一員として目的を達成するために一致団結して努力することであり、けっして個人的な感情を表面に出して仕事をするべきでは無いということです。しかし私たちも人間ですから常に聖人君子のような振る舞いはできませんし、表面上取り繕うことがストレスを生む原因ともなります。そこで重要なのが「美点凝視」という言葉です。人は他人の嫌な部分はすぐに目につきますが、好きな部分はあまり積極的に認識することはありません。つまり大事な事はその人の良い点（美点）に注目し、「この人は××な面はあるが、○○という素晴らしい点がある」と考えることが美点凝視の精神であり、他人の良い点に注目して常に皆と笑顔で接する事こそが社会人としての人間関係の基本だということなのです。当社では「明朗・愛和・喜働」（明るく朗らかに・みんな仲良く他人を慈しみ・喜んで働く）の職場づくりを目指しております。こんな職場づくりに来年度もご協力お願い致します。

## 第一回賢い家づくり勉強会開催



3/5 日曜日に R+ハウス秋田北主催で「第一回後

悔しいための賢い家づくり勉強会」を開催しました。断熱気密の重要性と、国の住宅政策、さらには資金計画まで、20 名程のお客様にお越し頂きまして大変好評でした。次回は 4/23 に秋田市文化会館で開催、その後偶数月に開催して、6 回の開催を企画しております。

## 日本商工会議所議員総会

5 回 通常会員総会



3 月 16 日東京帝国ホテルにて開催された日本商工会議所議員総会に出席しました。来賓は内閣総理大臣安倍晋三氏、記

念講演は iPS 細胞でノーベル賞を受賞した山中伸弥氏でした。安倍総理からはアベノミクスの三本目の矢の要は民間投資であり、全国の中小企業が入会している商工会議所会員の積極投資に期待しているとのメッセージがありました。また山中先生からは iPS 細胞は現在、移植医療と新薬開発の二つの分野で研究が進んでおり大いに期待されているが、莫大な研究費が必要な中、研究予算は厳しい状況だとのことでした。

